ARCHICAD 教育版

人と森がつなぐ、未来の輪

第50回全国育樹祭　式典用ステージ「バックパネル」デザイン提案



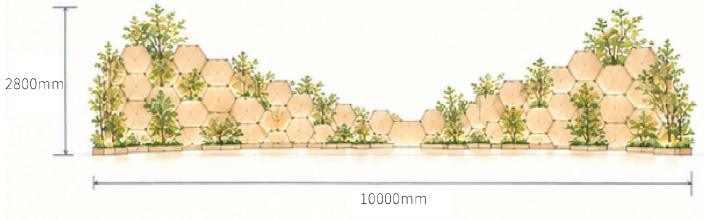
コンセプト

秋田県産材を用いた六角形の木製パネルを組み合わせ、一つひとつの木が集まることで大きな森をつくる姿を表現する。
六角形は蜂の巣のように互いに支え合う形であり、人と人、地域と地域がつながり、支え合う姿を象徴している。
また、パネルの間に配置した植物は、木が育ち、森が広がっていく様子を表現する。
両側から中央へ向かって高さを抑えることで、森の中に人が集まる「ひらかれた場所」をつくり、式典の舞台として人の視線を中央へ導く。
木の温かさと植物の生命力、そして六角形が生み出す連続性によって、
「森を育てることは、未来を育てること」
という全国育樹祭の理念を、舞台そのものによって表現する。

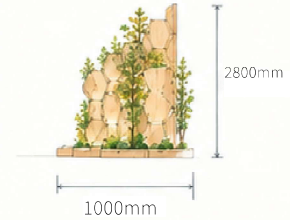
パネルの接続方法（計画案）

各パネルは木製の背面枠に固定し、隣り合う背面枠を
連結プレートとボルト・ナットで接続する。接合部を背面に
隠すことで、正面は木の表情を保ち、分解・再組立ても可能にする。
全体は背面の支持架台と一体化し、控え材と床への固定で転倒を防ぐ。
金物の寸法・本数、固定方法は荷重と会場条件に応じて検討する。

正面図



側面図



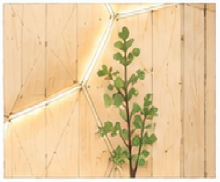
ディテール



六角形のパネルの隙間に
LED照明を入れ，優しく光る
仕上がりに



パネルの間や上部に植栽を配置
し，木やグリーンによって自然を
感じられるデザインに



木材の質感を活かした
ナチュラルな仕上げで，
木のぬくもりを演出

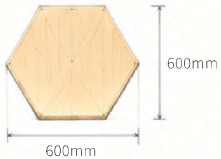
バックパネルの特徴

・昼と夜で表情が変わる。
昼間は木材の木目や植物の緑を主役とし、自然そのものの温かさを感じられるデザインとした。一方、式典時には六角形の隙間から光が漏れることで、木の輪郭が浮かび上がる。自然素材と光を組み合わせることで、昼夜で異なる表情を持つステージをつくり出した。

・再利用のしやすさ
式典終了後も木材を無駄にしないよう、パネルを一つの単位として分解・運搬できる構成とした。同じ形状のパネルを組み合わせることで、設置場所や規模に応じた再構成が可能となる。全国育樹祭の一度の式典だけで終わらず、次の場所・次の世代へ木材をつないでいくことを目指した。

・人と自然の関係性
パネルの間に植物を配置することで、木材によってつくられた人工的な構造物の中に自然を取り込んだ。木材と植物が一体となることで、建築と自然が対立するのではなく、共存する風景を表現している。

パネルの構成



六角形パネルサイズ



パネルを組み合わせて
立体的なフォルムに

使用素材

木材



植物
（観葉植物の鉢植え）

使用イメージ



六角形の意味

・複数のパネルを連続させることができる
・蜂の巣のように互いにつながる
・森の「木々が集まる」イメージと重なる
・パネルの増減によって大きさを調整できる
・同じ部材を繰り返し使える

木材のどの部分を使うか

秋田杉の幹から製材した板材を使用する。
樹皮を除き、板の広い面（板目面）を
表に見せて木目や節の表情を活かす。
乾燥した板を幅方向に接ぎ合わせ、
六角形に加工し、背面の枠で補強する。
間伐材や製材時の端材も、寸法や品質を
確認したうえで組み合わせて活用する。

秋田県産材の木目や色合いを活かし、木そのものの温かさを感じられる仕上げとした。
地域で育った木を式典の舞台として活用することで、森林を守り育てるという大会の理念を空間として表現する。

植物の育て方・管理方法

観葉植物を事前に鉢で育て、式典時に配置。
防水受け皿付きの着脱式ボックスに鉢を
収め、背面枠で支持する。土や水が木材に
直接触れない構成とし、鉢を取り外して
水やり・水切りを行う。採光に合う種を
選び、長期展示では育成灯を併用する。
式典後も鉢ごと移設し、継続して育てる。